

## 「歴史文化基本構想」におけるストーリー・関連文化財群としての土木遺産・社会インフラ

Civil works and social infrastructure as a story / related cultural property group in "History and culture basic plan"

北海道教育大学教育学部  
北海道開発技術センター○正 員 今 尚之 (Naoyuki KON)  
正 員 原口 征人 (Masato HARAGUCHI)

## 1. はじめに

近年、社会インフラをめぐるツーリズムが盛んになってきた。例えば、国土交通省はウェブ上に「インフラツーリズムポータルサイト」を開設し、管理者としての情報提供のみならず、民間企業が主催する土木施設の見学や旅行についても情報を提供している。

さて、最近のインフラツーリズムの傾向を見ると、施設・構造物単品を訪問する内容から、社会インフラが持つ文脈（歴史性、地域性、社会性）を重要視する内容へと変化しつつあり、北海道においては、土木学会北海道支部による物語を重視した土木遺産ツアーなどが行われている。それらは原口らにより報告が積み重ねられ、報告では、地域と土木施設・構造物の関係をストーリーとし、それを読み解くツーリズムの拡がり、市民各層の土木に対する理解、共感につながると指摘をしている。

現在、自然や歴史的な環境を生かしたまちづくりに取り組む自治体では、「歴史文化基本構想」の策定が進められており、策定された構想では主要文化財群と関連文化財群によるストーリーづくりにより、文化財保護意識の醸成とまちづくりへの活用が期待されている。

このことから、今後、北海道の土木遺産、社会インフラを対象としたインフラツーリズムを進める上でも、各自治体が策定した構想で示されたストーリーや主要文化財、関連文化財群については、参考になる事例も多いと考えられる。今回、各自治体の構想について整理し、検討を行ったので報告をする。

## 2. 地域の物語と歴史文化基本構想

## 1) 歴史文化基本構想の概要

今回、検討の対象とした「歴史文化基本構想」は、「地域に所在する文化財を総合的に保存・活用するための方針を定めるもの（文化庁）」である。地方公共団体が文化財保護行政を総合的に推進するためのマスタープランともいえる計画であり、所管は文化庁である。

特に、これまでのまちづくりの諸制度と文化財保護制度による保護施策とを関連付けることで、体系的、一貫性を持って周辺環境も含めることで、まちづくり志向を明確化していることは、重要なポイントである。

## 2) 歴史文化基本構想の背景

文化審議会文化財分科会企画調査会報告書（2007年）には、この構想が策定された背景が書かれている。そこでは、「国・地方公共団体に指定されていない、地域の人々の暮らしの中に埋もれた文化財が、その存在を認識されながらも価値を見いだされないまま失われつつあ

り……」「……文化財及び地域の歴史や文化に対する人々の理解を深めることが必要で、そのためには、関連する文化財とその周辺の環境を一体としてとらえ、地域の歴史や文化を示す魅力的なものとして提示し、保護していくことが必要……」という認識が示されている。

## 3) 人々の理解を深める「ストーリー（物語）」

「歴史文化基本構想」を提言した2007年の文化審議会文化財分科会企画調査会報告書では、「文化財及び地域の歴史や文化に対する人々の理解を深める」ために、「魅力的な形で、分かりやすく人々にその価値を提示していくことが欠かせない。そのためには、（略）地域の歴史、風土や文化を背景として、一定のテーマのもとに文化財をその環境も含めて総合的にとらえ、まちづくりや地域の活性化などに生かしていく視点が重要である。」と提言をした。また、文化庁の「「歴史文化基本構想」策定ハンドブック」では、「個々の文化財の評価だけに限らず、地域の歴史文化の特徴を示すテーマやストーリーに基づき、文化財を群として捉えて保存・活用の方針を定めること」が書かれている。

## 4) 関連文化財群

「関連文化財群」とは、文化庁によると「歴史的関連性や地域的関連性などに基づく、相互に関連のある文化財の一定のまとまり」であり、「地域の歴史や文化を語る重要な地域の資産として、総合的に保存・活用を図ることが望ましいもの」と説明されている。

したがって、ストーリーとして、直接土木事業が取り上げられていなくとも、構成要素として土木遺産や社会インフラが扱われていることは、土木理解にとって必要であり、インフラツーリズムを進めるためにも、それらの扱いを検討する必要がある。

## 3. 策定自治体の歴史文化基本構想にみる地域の物語

## 1) 「歴史文化基本構想」の策定状況

2016（平成28）年11月現在、全国で45の基礎自治体が歴史文化基本構想を策定している。それらの構想は、「文化財総合的把握モデル事業」「文化遺産を活かした地域活性化事業（歴史文化基本構想策定支援事業）」によるほか、各地方公共団体が独自に策定したものもあり、文化庁のウェブサイトで報告書が紹介されている。

## 2) 「文化財総合的把握モデル事業」による基本構想策定自治体の物語と社会インフラ

本報告の検討は「文化財総合的把握モデル事業」によって策定された21自治体の基本構想を対象とした。な

お、北秋田市、上越市、佐渡市、高砂市、太宰府市にはストーリーがないまたは、土木遺産、社会インフラが関連文化財群にないことなどから検討対象から除いた。

表1は、歴史分解基本構想策定自治体におけるストーリーや関連文化財群としての土木遺産・社会インフラの扱いをまとめたものである。

表1 歴史文化基本構想策定自治体におけるストーリー、関連文化財群としての土木遺産・社会インフラの扱い

| 自治体     | 土木遺産・社会インフラに関するストーリー                                                                | 土木遺産・社会インフラの扱いなど                                                                                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 盛岡市     | テーマ2「電気と水道-近代的な暮らしの始まり-」/テーマ3「鉄道開通-盛岡を起点にした北東北の拠点づくり-」/テーマ4「賢治と外山-西欧式の大規模畜産農業へ向けて-」 | それぞれのテーマごとに関連文化財として、水道施設、鉄道施設・構造物などが関連文化財として取り上げられ、ストーリーが作られている。                                                                                         |
| 三島町     | 三島町の集落に関する物語（宮下地区）                                                                  | 奥只見電源開発にともなうダム建設について記述されている。                                                                                                                             |
| 足利市     | 織物産業の隆盛と近代化するまちの物語                                                                  | 近代土木施設・建造物として指摘はしているが、具体的な記述なし。                                                                                                                          |
| 日の出町    | セメント産業と近代化遺産～東京を創り日の出町を支えた石～                                                        | 鉄道路線跡や駅施設跡などがストーリーを構成する関連文化財群として指摘されている。                                                                                                                 |
| 高岡市     | 土木関連の直接的なストーリーはない                                                                   | 関連文化財として、用水・集落内の水路、水門等の治水設備などが取り上げられているが具体的なストーリーとなっていない。また伏木港について取り上げているが、土木遺産としての扱いは見られない。                                                             |
| 加賀市     | 「加賀市らしさ」を物語る歴史文化のテーマの設定                                                             | 土木遺産、土木施設・構造物など社会インフラについての記述はない。                                                                                                                         |
| 小浜市・若狭町 | ストーリーはないが、関連文化財群として「往時のたたずまいと近代化遺産の融合」が指摘されている                                      | 構想では「近代遺産の系譜はJR小浜線(大正年間に開通)に受け継がれ、現在もほぼ全線にわたってトンネル、橋梁、給水塔等の駅施設が残されている。……また、近代の街と鉄道遺産群については、これだけ大正期の鉄道施設が残っている鉄道は稀有なものであり、その豊かな沿線景観とともに守り育てていくべき」と書かれている。 |
| 韮崎市     | 三大堰／釜無川・塩川河川流域／鉄道                                                                   | ストーリー別エリアマップを作成し、三大堰（徳島、藤井、朝徳）、釜無川・塩川河川流域（将棋頭、霞堤）、鉄道（中央本線を中心とする近代交通遺構）の関連文化財群について説明がなされている。                                                              |
| 高山市     | 城下町高山の近代化                                                                           | 関連文化財群として、高山本線の開通と高山駅の設置(1934年)のみで具体的な土木施設・構造物は書かれておらず、ストーリーは示されていない。                                                                                    |
| 篠山市     | 土木施設・構造物を取り上げているが、ストーリーはなく、関連文化財として具体的な記述はない。                                       | 関連文化財群として「田松川(運河)、馬渡橋、追入のトンネル(明治・昭和・平成の3つのトンネル)、吹土地改良区揚水所、旧王地山配水池、篠山チルドレンズミュージアム」が示されているだけで具体的な説明はない。                                                    |
| 津和野町    | 街道・舟運の文化と遺産／城下町の水文化／堀氏の鮎山経営と地域文化                                                    | 関連文化財として、山口線、水路、晩越（おそこえ）水力発電所跡などが取り上げられているが具体的なストーリーは示されていない。                                                                                            |
| 尾道市     | 土木施設・構造物を取り上げたストーリーはないが、関連文化財としている。                                                 | 関連文化財群として「地域に息づく近代化遺産」として、産業、生活の両視点から鉄道、港湾、水道施設について具体的な施設・構造物名を上げながら説明。                                                                                  |

|             |                                     |                                                           |
|-------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 日南市         | 港町油津と堀川運河／外浦・明井津・大堂津と街並み／飢肥街道と山仮屋関所 | 近世から近代にかけての漁港整備や交通路整備（隧道建設）など、ストーリーの中で関連文化財として具体的に示されている。 |
| 宇検村・伊仙町・奄美市 | 歴史遺産6:奄美群島の近代化を物語る遺産                | 「住用ダム」と書かれているが具体的な記述はない。                                  |
| 南城市         | 海との共生                               | 関連文化財として「漁港」と書かれているが具体的な記述はない。                            |

### 3) 各自治体が策定した構想の検討結果

自治体ごとの基本構想を検討した結果、土木遺産や社会インフラをストーリーのテーマとした自治体は少ないことが分かった。しかし、そのなかでも、近代以降の地域の発展について取り上げた自治体においては、土木遺産・社会インフラに関するストーリーをつくったり、関連文化財群として重要視していることが読み取れた。

例えば、盛岡市の構想は、石川啄木と宮沢賢治を主要なテーマとしているが、全国的に著名な両名と盛岡市の関わりを軸にしながら近代の発展を取り上げ、水道施設、発電施設などを関連文化財群としてリストアップしている。さらに鉄道建設事務所、管理局、工場など鉄道関連施設が集中していることから、鉄道関連の社会インフラ、土木遺産をテーマとしたストーリーを作っており、交通整備事業がストーリーづくりの重要なテーマの一つであることが示されている。

日南市の構想からは、近世から近代にかけての漁港整備や交通路整備など、地域発展のストーリーのなかで、社会インフラの整備を取り上げ、港湾施設や隧道などを土木遺産関連文化財として具体的に示している点は、土木遺産、社会インフラを前面にするのではなく、地域開発、地域発展を理解する要素として組み込むことの必要性を具体的に見せている。

また、韮崎市では、近世から現代まで続く治水や近代の鉄道整備など土木事業を直接ストーリーにしており、インフラツーリズムのストーリーづくりにおいて、災害、防災事業が必要なテーマとなることの視点を与えているほか、土木事業を地域の歴史文化の主要なテーマとし、ストーリーづくりが可能であることを示している。

### 4. おわりに

北海道内の自治体においても「歴史文化基本構想」の策定が始まっている。現在、2016年度から3カ年計画で小樽市がその策定に取り組んでいる。小樽市は、北海道の近代発展を支えた代表的な都市であることから、土木遺産、社会インフラを直接テーマとするストーリーや、数多くの関連文化財群が示されるものと考えられる。そのことから、北海道の開発事業と土木の役割を再認識させる「歴史文化基本構想」になるものと期待される。

土木のインタープリテーションを進める上で、土木遺産、社会インフラに関連するストーリーづくりでは、直接の物語のみならず、地域発展、地域開発の視点から多様な視点から、関連する文化財群として土木遺産や社会インフラの把握なども着実に行っていく必要がある。